

# 会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	令和3年7月26日(月) 15時00分～17時00分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階テラホール、5階507教室
参 加 者	外部委員：3名   内部委員・学内関係者：2名
	<p>&lt;外部委員：3名&gt; (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>小山 誠之 (株式会社パワープレイス プレステザインセンター教育・公共デザイン部 部長)</p> <p>島田 祐輔 (apgm デザインアトリエ/法政大学大学院デザイン工学研究所 兼任講師)</p> <p>鈴木 俊恵 (STeam/一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会 東京圏支部 支部長)</p> <p>&lt;内部委員：2名&gt;</p> <p>高山寿一郎 (専門学校 東京テクニカルカレッジ インテリア科科长、議長)</p> <p>村田 涼 (同 インテリア科、書記)</p>
会 議 録	<p>&lt;第一部 系別分科会&gt; 15:00～15:30 地下1階テラホール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校長挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 白井雅哲</li> <li>2. 委員のご紹介</li> <li>3. 2020(令和2年)度事業計画進捗状況報告             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生募集に関する報告</li> <li>② 教務・就職に関する報告</li> <li>③ 授業の問題発見・改善手法に関する報告</li> <li>④ 学習成果の見える化に関する報告</li> <li>⑤ 新科2科設立に関する報告</li> <li>⑥ 専門人材未来会議に関する報告</li> <li>⑦ リアルジョブプロジェクトに関する報告</li> <li>⑧ 高等教育無償化およびリカレント教育に関する報告</li> </ol> </li> </ol> <p>&lt;第二部 系別分科会&gt; 15:40～17:00 5階507教室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議長挨拶(高山)</li> <li>2. 各自自己紹介</li> <li>3. カリキュラム解説</li> <li>4. 現在の科の状況</li> <li>5. 作品紹介・6F展示</li> <li>6. DXをワクワクさせる学校創りのキーワード・意見交換</li> </ol> <p>1.)議長挨拶と建築・インテリア系の評価委員からの分科した経緯・配布資料説明</p> <p>科が多くなるとインテリア科の問題点についてまで手が届き辛くなってしまふ為、カリキュラムの見直しを行うため独立。(高山)</p> <p>配布資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムチャート 2年間で学ぶ科目</li> <li>・各科目での作成課題・作品</li> <li>・2年間各授業のシラバス</li> <li>・DXをワクワクさせる学校創りのためのキーワード</li> </ul> <p>2.)各自自己紹介</p> <p>3.)カリキュラム解説</p> <p>学習の流れ、各科目の繋がり実習系の科目、座学知識系の科目についてRJPのプロジェクトについて(高山)</p>

#### 4.)現在のインテリア科の状況

出席率が1年生が26名99% 2年生が29名94%(但し就職活動の欠席含む)という状況で好調、色彩検定や福祉住環境コーディネーターの3級試験の状況も好調。(高山)

福祉は3級を学生で取得し、業務で扱うならできれば近いうちに2級がとれるとよい。色彩検定も2級が良い、また1級は取得者が非常に少ないので価値がある(鈴木委員)

IC試験結果・2年生6名/1年生3名の9名が1次試験合格、その9名のうち、2年生3名/1年生1名の合計4名が2次試験合格しインテリアコーディネーターになった。(高山)

#### 5.)6F展示、作品紹介

#### 6.)DXをワクワクさせる学校創りのキーワード・及び意見交換

中期計画テーマ2、DXをワクワクさせる学校創りのキーワード  
XR/VR/AR/BIM/センサー/AI家電・オール電化/3Dプリント/省エネルギー

「BIMは必要になって来ると思いますよ」  
インテリアの分野でも、オフィス・ビルなどの建築設計ではBIM化が進んでいて、家具や照明などもメーカーにて金額や材質などの情報を含ませたブロックデータ化が始まってきている。BIMが扱える人は有利になって来るとは思わないか。(小山委員)

インテリア科就職先はハウスメーカー(昨年度21%)・リフォーム業界(昨年度18%)が多い実際にBIMが使えれば幅は広がるか。(高山)

ダイワハウスは完全BIM化を宣言していたり大手ほどBIMを積極的に取り入れている。建築系の会社との連携がしやすくなるし、近い将来公共的な大きなものはBIMデータ必須になる。(小山委員)

様々なブロックデータを共用ライブラリーなどで集約して使っていくため導入に時間がかかることもあり個人住宅などのレベルではまだ先になると思われるが、ブロックデータを作っていれば設計で使いやすく売り上げにつながるため各メーカーが自社製品をデータ化しつつある、やっていないと取り残されていく可能性もあり大手ほど力を入れている傾向。(小山委員)

学生時代に知識・技術としてBIMの使い方を身に付けておいたほうがよいのか。(高山)

今現在であれば、読める・見れる・扱える程度あれば十分活用できる。この先どこまで専門的な技術が必要かどうかまではわからない。(小山委員)

XRやAR・VRの分野では不動産会社でCGルームといい、VR空間内に好きな家具の配置ができる、自分好みのモデルルームを仮想体験できるという取り組みが行われていて、成約率が高い。(小山委員)

技術が発展ってきていてCGパースなども作りやすく使いやすくなっているが半端にリアル過ぎるCGを使うと実際の仕上がりとの乖離でトラブルになる可能性がある。(鈴木委員)

DX という点では他分野の IOT のセンサーなどロボット(ペッパー君のような)ものがすでに一部取り入れられているがインテリアの分野にさらに深く活用されていくのではないか。バイオマスエネルギーなどの循環エネルギーであつたりもそうだし、テレビが薄くなり、リビングの配置計画が大きく変化したり、ルンバの為に床にモノを置かなくなったりするように、電気自動車が室内に置かれるようになって新しいプランニングが生まれるという可能性がある。いろいろな分野の発展は住宅の計画やインテリアプランニングに影響していく。(島田委員)

コロナ禍での生活も、リモートワークなどあり空間のプランニングに影響を与えている。(島田委員)

若い年代層でテレビを置かない人が増えてきた。見る場合もスマホ・タブレットで見れる。リビングにテレビを置かなくなる時代が来るかもしれない、こういった実際の現場の話を授業でもっと伝えていきたい。(鈴木委員)

VR や AR といったデジタル仮想体験なども増えているがインテリアはあくまで人が触れる物理的な空間、床や壁・天井やカーテンなど手触りができるのは大事、ベースの骨格は技術が革新されていっても変わらない、手書き図面や校外学習などアナログの感覚もデジタルの感覚もどちらも重要。(島田委員)

お客様との打ち合わせもリモートでやることが実際に増えている。(鈴木委員)

コロナ禍でリモートの就職活動や仕事のやり方も大きく変化している、学生のうちからリモートの感覚を身に付けていくのも大事。(高山)

- ・ 次回日程 (高山議長)  
11月26日 15時～
- ・ 閉式の挨拶 (高山議長)

以上